

移住コンシェルジュの ぶらり鹿角散策

Vol.6



今年3月末で移住コンシェルジュの任期は満了しますが、勝又・菅原ともに、鹿角へ嫁ぎましたので、これからは引き続き鹿角でお世話になります。そこで今回はそれぞれの嫁ぎ先について調べてみました。

政策企画課 鹿角ライフ促進班 ☎30・0208

鹿角市 仁叟寺の山門から見える風景

勝又コンシェルジュ 毛馬内

移住コンシェルジュの勝又です。私は、夫の父の実家がある毛馬内に嫁ぎました。毛馬内は、「内」がアイヌ語で谷の出ぎわ、沢を意味するところからアイヌ語地名と考えられています。1608年二代藩主利直が旧毛馬内中学校跡の丘陵にあった当麻館を柏崎に移転したことで、毛馬内町400年の歴史がスタートしました。



毛馬内町は、町から約4キロ弱の白根金山とともに栄え、諸国から商人や金堀たちが集まって賑わいを見せたといわれています。また、学問・教育分野では学者の内藤湖南や十和田湖開発の父和井内貞行のほか、「鹿角縁起」を著した伊藤為憲、女性民俗学者の瀬川清子など数多くの偉人が毛馬内より誕生しています。

★城下町を感じよう

武者隠し
本町通りは、敵との戦いを想定して、家が道路に対して平行ではなく少し斜めになっていきます。兵が2、3人隠れられるように、隣家との境をずらして建てられているそうです。今でもその名残を感じることが出来ます。

鹿角最古の武家屋敷

武家屋敷通りにある伊藤為憲・伊藤良三先生（初代十和田町長）の出生地を、12代目の一三さんに案内していただきました。約260年の歴史ある武家屋敷には、甲冑や槍、陣笠、さらに武者隠し部屋もありました。

柏崎新城本丸跡までの道

城の正門である「大手坂」の道中には石垣が一部残っています。そこは「枳形の道」になっており、敵の侵入を防ぐ構造が見られます。

柏崎館の手前に耳捨沢の看板を発見しました。馬の産地であった毛馬内は馬の頭数管理のため、死んだり、食した馬の耳をこの沢へ捨ててきたそうです。

そのほか、掲載しきれなかった町の魅力はまだあります。今回は、まちの案内人の田子善章さんと鹿角市先人顕彰館館長の小田嶋隆一さんに案内してもらいました。毛馬内について、気になった方はぜひお二人を訪ねてみてくださいね。



小田嶋さん（左）と田子さん（右）

菅原コンシェルジュ

新田町

私の嫁ぎ先である花輪の新田町ですが、新田町といえば2つの井戸と、花輪ばやしの運行時に通る枳形ぐらいいしか知りませんでした。もっと新田町のことを知りたいと思い、新田町自治会長戸館和夫さんから話を聞きました。

「新田町」という名前は、「多くの農家がある集落」に由来しますが、戸館会長は「現在、50世帯以下になってしまいました。その分まとまりがいいのが新田町の自慢です」と話していました。

★花輪ばやしを受け継ぐ

参加者の減少対策や観光客の満足度向上に向けた工夫

花輪ばやしでは、参加者の減少への対応や観光客に喜んでもらうための工夫を行っていると話していました。

それは、42歳以下で形成される若者会だけでは運行に支障をきたす可能性があるため、42歳以上でOB会を結成し、上り坂や駅前のみ屋台を押し付けて祭りに関わっているそうです。また、駅前行事では、観光客に喜んで



屋台の竣工！
なんと、昭和55年



地域に親しまれる井戸
このほか、新田町には井戸があり、夏にはスイカやお野菜、お酒までもが冷やされている光景は印象的ではっきりと覚えています。

今年の花輪ばやしは、特徴的な総櫓作りの屋台ができてから40年と、当番町として大きな節目の年を迎えます。私ももちろん参加させていただきたいと思っています。もし見かけたらぜひお声かけください。

移住者紹介

鹿角市に新たな仲間が増えました

東京都からイターン

青木 秀之さん

都内の高校を卒業後、都内のそば屋で5年間修行をし、父の代から約50年続くそば屋の2代目になりました。鹿角に移住をする前は、東京都の立川市でそば屋をしていましたが、物価や立地の関係もあり、新天地で商売をしたいと考えようになりました。そんな時、鹿角産のそばの実を仕入れている製粉会社の方に、下川原でそば屋をやるか誘われたのです。鹿角には縁もゆかりもありませんでしたが、そば屋を続けたいと思い、すぐに移住に向けて動き出しました。農事組合法人の方々のご協力もあり、昨年11月に無事お店をオープンしました。

鹿角の自然は大きな可能性を持っています。東京では、時期によって北海道や茨城産のそば粉を使用していました。下川原では半径10キロ圏内で採れたそばを原料とした100パーセント鹿角産江戸前手打ちそばにこだわっています。地元の方々にも当地の素晴らしさ、そばの美味しさを再確認してもらえたら嬉しいですね。

慣れない除雪作業は大変ですが、冬季も元気に営業していますので、ぜひお立ちください。

